

平成 28 年度
教育行政の執行状況に関する点検評価報告書
(平成 27 年度事業対象)

夕張市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	点検評価の基本方針	2
3	事業評価の判断基準	2
4	評価委員会の設置	3
5	評価委員会のまとめ	3
6	点検評価の結果	
(1)	安全安心な通学体制の整備	4
	①スクールバス運営 ②遠距離通学支援 ③児童生徒通学安全対策（添乗員の配置） ④小中学校通学費補助（定期券代） ⑤児童生徒通学安全対策	
(2)	地域全体で学校を支える体制の充実	8
	①学校支援地域本部事業 ②夕張市小中学校サポート会議 ③夕張高等学校対策委員会	
(3)	学校教育の充実	11
	①生徒指導対策 ②ことばの教室運営 ③障がい児教育促進協議会補助 ④総合的学習実践 ⑤中学校体育大会開催 ⑥外国語指導充実 ⑦地域 I C T利活用広域連携事業 ⑧特別支援教育支援員配置 ⑩小学校学力向上事業 ⑪小中学校図書充実及び学校副読本作成	
(4)	学校施設設備の充実	17
	①小・中学校校舎維持補修 ②小・中学校教材教具整備 ③小・中学校維持管理 ④小学校教育 I C T機器整備	
(5)	児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	20
	①小・中学校給食運営 ②中学校給食業務 ③児童生徒の健康管理	
(6)	幼稚園教育の充実	23
	①幼稚園運営	
(7)	文化振興	25
	①児童生徒鑑賞教室 ②美術品管理事業 ③公民館事業 ④ふるさとギャラリー事業 ⑤生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業 ⑥文化財保護事業 ⑦図書コーナー事業 ⑧郷土文化施設事業	
(8)	スポーツの振興	30
	①文化スポーツセンター管理 ②平和運動公園管理 ③体育施設管理 ④清水沢プール管理	
7	資料	33
	・平成28年度夕張市教育行政評価実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱 ・夕張市教育行政評価委員会実施要綱 ・夕張市教育行政評価委員会開催経過	

1 はじめに

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、毎年事務の管理と執行状況について点検評価し、その結果報告書を議会に提出するとともに、市民に公表しなければなりません。

本報告書は夕張市教育委員会が行った平成27年度の主な事業について自らが点検評価すると共に、その客観性を確保するため市内の学識経験者で構成する夕張市教育行政評価委員会の評価と意見を付して結果をまとめたものです。

なお、以下は平成27年度に教育委員会が行った主な事業8項目についてのまとめです。

(1) 安全安心な通学体制の整備

市内全域が学校区であることから、児童生徒の安全安心な通学体制を確保するため、学校、家庭、バス会社、市民ボランティアなどとの連携体制や、バス添乗員の配置、児童見守りシステムなどソフト面の整備充実に努めてまいりました。

今後新たに生じる課題については「通学路交通安全プログラム策定委員会」の機能を十分に活用し、必要な見直しを行うとともに、通学路の安全確保やバス停車帯など交通安全施設の設置について引き続き関係機関に要望してまいります。

(2) 地域全体で学校を支える体制の充実

地域の教育力を活性化するため夕張市全体で学校を支援する活動や、地域に開かれた学校づくりを進めるため、学校支援地域本部事業の充実に努めるとともに、夕張市小中学校サポート会議については学校と保護者、地域を結び開かれた学校づくりを進めてきました。

また、夕張市としてより良い高等学校の在り方、方向性を考えるため夕張高等学校対策委員会で議論を進めてきたところであります。

(3) 学校教育の充実

学ぶことに楽しさや成就感を持ち、基礎的な力を着実に定着させる学習指導と活力に富む諸活動の充実を図るため、小学校における学力向上事業や中学校におけるQ-Uの実施、総合的学習実践、外国語指導充実、特別支援教育の充実などの諸事業を進めてまいりました。

また、学校図書館の機能向上を図るため、計画的な図書の購入を行っております。

(4) 学校施設設備の充実

教材・教具、学校備品等教育条件整備には、教育ICT機器を順次導入し、現状に即した、地域間格差のない、教育環境を提供していき、校舎の維持補修については、児童生徒の学習活動に支障が生じないよう整備に努めてまいりました。

(5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

児童生徒の健康管理については、学校医や養護教諭と連携し、学校保健法に基づく必要な検査等を行い、疾病の早期発見に努めるとともに、インフルエンザ等感染症については関係機関と連携し感染拡大の予防に努めてまいりました。

学校給食については、児童生徒の発達段階に即した給食の充実を図るため、食に対す

る指導と実践を通じ、食育の充実と保健所など関係機関と連携し、食中毒など給食事故の未然防止に努めてまいりました。

(6) 幼稚園教育の充実

創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、小学校、保育園、福祉施設などとの交流や外国語指導助手（ALT）による英語遊び、野菜栽培による食育教育の充実など魅力ある幼稚園づくりに努めてまいりました。

4・5歳児の混合保育については、幼児の数が減少する中、小学校入学前の集団生活による学習に大きな成果を上げています。

(7) 文化振興

市民一人ひとりが心豊かに充実した生活を送れるよう、公民館事業、生涯学習プロジェクト事業、ふるさとギャラリー事業など、市民ボランティアとの協働の力を通し生涯学習の機会を提供してまいりました。

また、石炭博物館等は貴重な歴史と地域文化を後世に継承する施設として、博物館相当施設の指定や博物館再生のための地域おこし協力隊の雇用を実施してまいりました。

美術品については、公共施設での展示など、公開や活用を行ってまいりました。

児童生徒鑑賞教室については、子ども達の豊かな情操を育む目的で小・中学校において実施し好評を得ております。

(8) スポーツ振興

子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、各スポーツ施設について利用者の利便性を考慮しつつ合理的な運営に努めました。

また、これらの施設において開催されるスポーツ大会等の実施にあたっては、必要な支援協力を行う中で、スポーツの振興と施設の有効活用を図り、地域活性化の一助ともなっております。

2 点検評価の基本方針

(1) 目的

夕張市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

(2) 点検評価の対象及び方法

点検評価の対象は、平成27年度実施した教育委員会所管の主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価を行いました。

3 事業評価の判断基準

- 達成度
 - A 事業が十分に達成された（9割以上）
 - B 事業が相当程度達成された（7割～8割）
 - C 事業の達成度がやや不十分である（5割～6割）
 - D 事業が達成されなかった（5割以下）

- 事業効果 A 十分な事業効果が得られた (9割以上)
- B 相当程度の事業効果が得られた (7割～8割)
- C 事業効果がやや不十分である (5割～6割)
- D 事業効果が不十分である (5割以下)

4 評価委員会の設置

教育委員会が行った点検評価の客観性を確保するため、夕張市教育行政評価委員会を設置し、教育に見識を有する方5名のご意見と評価を頂きました。

- 評価区分 A 順調 順調に事業が達成されている (9割以上)
- B ほぼ順調 概ね順調に事業が達成されている (7割～8割)
- C 努力を要する 事業の達成度が不十分 (7割以下)

5 評価委員会のまとめ

教育行政の執行全体に関わって、平成27年度の教育行政執行方針に沿って8項目の事業が確実に実施されていることは評価できる。

財政再生計画達成のため、少ない予算と少ない職員で教育行政執行に大変努力していることが認められ評価できる。

教育行政は夕張の将来の地域再生に係る子どもの育成に対する仕事を分担するために十分な教育予算が盛られるべきであるが、そうでなければ教育委員会として予算の獲得に力を注ぐ必要がある。

教育委員会制度の改正により教育委員会に対する首長の関与権限が大幅に強化されているが、夕張の場合は教育行政の中立性が保たれる必要があると考えられる。

故郷夕張に誇りを持てるように、夕張ならではの校種間連携や、社会に貢献できる子の育成、また、市民が沢山ある夕張の良さや、夕張を知ることが大事であり、先人の知恵を借りながら、文化の推進や楽しい生涯学習の推進を目指し、教育行政の推進には今後も大いに期待したい。

なお、平成27年度分教育委員会事業の個別評価及び意見については、4頁以降の教育行政点検評価表（総括表）に記載しました。

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
目的・概要	小中学校が各1校となった現在、約63%の児童生徒が路線バス及びスクールバスを利用して通学していることから、事故なく安全に通学できるよう、学校支援ボランティアや市民団体との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面での安全安心対策の充実を図る。	
主な事業項目	(1) スクールバス運営	(6)
	(2) 遠距離通学支援 (タクシー運行委託)	(7)
	(3) 児童生徒通学安全対策事業 (バス添乗員)	(8)
	(4) 小・中学校通学費援助 (バス定期代)	(9)
	(5) 児童生徒通学安全対策 (児童見守りサービス・一斉同報サービス)	(10)
課題 ・ 方向性	<p>小・中学校の統合後、大きな混乱もなく安全安心な通学体制を維持できているが、バス添乗員の高齢化などの課題もある。</p> <p>また、市内のバス及びタクシー会社の乗務員の減少も、今後の事業推進には影響を及ぼすことが考えられる。</p> <p>なお、新たに発生した課題については通学方法等検討委員会において、教育委員会、学校、事業者が連携し児童生徒の安全安心の確保に努めていく。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>大きな混乱もなく、順調に事業を推進することができているが、今後も引き続き安全安心の確保に努めていきたい。</p> <p>また、スクールバスの利用拡大やこれらに係る財源確保に尽力するほか、人材の確保にも力を注いでいく。</p>
判定	評価委員会 評価・意見	
A	<ul style="list-style-type: none"> 市内全域から通学する児童生徒のために、見守りボランティアが配置され、安全安心が確保されている。 また、年度初めには、新入学児童のためのバス添乗員事業も実施され、大きな成果をあげている点が評価できる。 統合後から5年が経過する次年度以降の通学費援助に係る財源対策が課題である。 児童見守りサービス・一斉同報サービスは、不審者・熊の目撃情報・雪害対策など迅速な情報発信により安全安心の向上に寄与しているが利用者の拡大が課題である。 	

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(1) スクールバス運営	
実績 効果	<p>小中学校の1校化により、円滑な通学手段を確保するためには、路線バスを中心としながらも、スクールバスの果たす役割は大きいものがある。 また、登下校のみに縛られることなく、小・中学校の行事等においてもスクールバスを柔軟に活用したため、学校教育活動の幅を広げることができた。</p> <p>平成27年度 登下校以外のスクールバス利用実績 小学校 21回 中学校 2回</p>	
課題 方向性	<p>本市の単独費用で運行委託しているため、安定した財源の確保が求められている。 また、今後もスクールバスの運行にあたっては、運行方法等も含めた幅広い教育活動への利活用を検討していく必要がある。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>路線バスを中心とした通学体制を取っているが、スクールバスの活用は必要不可欠であり、また、小・中学校の行事等におけるバスダイヤに縛られない柔軟な運行も期待できることから、今後も安定的かつ継続した事業実施が必要である。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(2) 遠距離通学支援 (タクシー運行委託)	
実績 効果	<p>バス通学を要する距離に居住しているが、児童生徒の特性によりバスでの通学が困難な児童生徒のためタクシーを借上げ、登下校の安全かつ確実な通学手段を確保している。 本町方面及び登川方面の2便を運行している。</p> <p>平成27年度実績 本町方面 小学生4名・中学生1名 207日 409回 登川方面 小学生3名 204日 388回</p> <p>対象児童生徒は確実に登下校ができたため教育活動に支障の出ることはなかった。</p>	
課題 方向性	<p>バス通学の代替手段としてタクシー通学以外はないことから、今後も事業の継続が必要である。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>バス通学が困難な児童生徒については、代替手段としてのタクシーを利用したことにより安心安全な通学をすることができた。今後も事業の継続が必要不可欠である。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(3) 児童生徒通学安全対策事業 (バス添乗員)	
実績・効果	小・中学校統合に関わる通学方法説明会における保護者からの要望を受け、児童生徒が通学に利用する路線バスに添乗員を毎年度4月から1カ月間配置するものである。 バス通学する児童生徒に対し、乗車マナーや安全な乗降方法などを指導することにより、人命に関わるような事故もなく、安心・安全なバス通学に寄与している。	
課題・方向性	バス添乗員の希望者が少なく、継続した人材の確保が難しい。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本事業の実施により児童生徒の安心・安全な通学に相当程度の効果があったものと考えられる。今後も児童・生徒に対する乗車マナー、乗降方法等の指導については、継続的に実施する必要がある。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(4) 小・中学校通学費援助 (バス定期代)	
実績・効果	学校の再編統合により、徒歩通学が困難な児童生徒を対象にバス定期券を現物支給している。 バス定期券については、個々の保護者に学校を通じて交付しているため、合理的かつ確実に児童生徒の通学が保障される。	
課題・方向性	文部科学省のへき地児童生徒援助費等補助金が学校の統合後5年間で約2分の1交付されるが、補助期間終了後は全額市費負担となることから、その財源対策が課題となっている。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	B	義務教育諸学校の再編統合による通学手段の確保は市の責務であり、長期的な事業継続が必要なため、今後もより合理的かつ利便性の高い運用を行う必要がある。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	1 安心安全な通学体制の整備	
事業項目	(5) 児童生徒通学安全対策（児童見守りサービス・一斉同報サービス）	
実績・効果	<p>登下校情報確認サービスについては、児童の登下校情報が保護者の携帯電話等に送信されることから、保護者の安心感と利便性を高めることができた。 一斉同報サービスについても、不審者・熊の目撃情報などを速やかに情報発信することにより、安全の向上に寄与している。</p>	
課題・方向性	<p>保護者や児童生徒への利用の呼びかけや、正しい利用、登録方法を周知していく必要がある。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	<p>児童見守りサービス・一斉同報サービスは、安心・安全な通学体制の確保に役立つものであり、今後も利用者の拡大に向けた保護者への周知を行っていく必要がある。</p>

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実		
目的・概要	新しい学校づくりや、今後の学校を支える体制づくりのため、地域の教育力の活性化など、夕張市全体で学校を支える活動と、地域に開かれた学校づくりを進める。		
主な事業項目	(1)	学校支援地域本部事業	(6)
	(2)	夕張市小中学校サポート会議	(7)
	(3)	夕張市高等学校対策委員会	(8)
	(4)		(9)
	(5)		(10)
課題 ・ 方向性	<p>学校支援地域本部事業については継続した事業展開が必要であり、ボランティアの資質向上や、高齢化の進行が大きな課題となっている。</p> <p>夕張市小中学校サポート会議については、地域と学校を繋ぐ組織であり、今後も地域に開かれた学校づくりのために機能を活用していく。</p> <p>夕張市高等学校対策委員会については、今後再編の対象となる可能性があることから、地域キャンパス校についても議論をし、方向性を協議検討していく。</p>		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	A	<p>地域全体で学校や児童生徒を支えるため、ボランティアや保護者、また地域の方々にご協力をいただきながら、市民も一体となって事業、会議、協議会を展開し効果をあげているが、今後もより一層努力していきたい。</p>	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	<p>児童・生徒の成長を図るため学校、家庭、地域が協力し合う場として「小・中学校サポート会議」を立ち上げたことは、学校の情報を地域に知らしめる効果が少しずつ出てきたと評価できる。</p> <p>いろいろ問題もあると思うが、この会議に高校も参加することにより、小・中・高が一本の線となり、夕張ならではの魅力ある学校づくりに役立つのではないかと。</p> <p>登下校時の見守りなど継続した事業を推進するために、高齢化したボランティアの後任をいかに確保するか問題である。</p>		

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実							
事業項目	(1) 学校支援地域本部事業							
実績・効果	<p>・平成22年度に中学校が1校に統合したのに続き、平成23年度には小学校も1校になったことから、全市にまたがる支援活動を行うための活動を展開している。また、平成23年度から、登下校時の安全指導、バス停での見守り体制を充実させている。</p> <p>・「ボランティア学習会」を開催するなど、ボランティアの質の向上及び養成のための活動も継続的に実施している。</p> <table border="0"> <tr> <td>○本の読み聞かせ 49回</td> <td>○学校行事への参加 1回</td> </tr> <tr> <td>○ボランティア学習会の実施 1回</td> <td>○参観懇談会待機児童見守り 9回</td> </tr> <tr> <td>○登下校時の安全指導 204回</td> <td>○授業（昔遊び・芸術文化体験）の補助 2回</td> </tr> </table>		○本の読み聞かせ 49回	○学校行事への参加 1回	○ボランティア学習会の実施 1回	○参観懇談会待機児童見守り 9回	○登下校時の安全指導 204回	○授業（昔遊び・芸術文化体験）の補助 2回
○本の読み聞かせ 49回	○学校行事への参加 1回							
○ボランティア学習会の実施 1回	○参観懇談会待機児童見守り 9回							
○登下校時の安全指導 204回	○授業（昔遊び・芸術文化体験）の補助 2回							
課題・方向性	<p>・コーディネーターの人材を探すのが困難な状況。またボランティアの高齢化が進んでいるが、それらを活かし、地域全体で学校を支える新たな体制を構築する必要がある。</p>							
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価						
B	A	平成27年度から環境整備（草刈）に替わり芸術体験の講師として中学校へボランティア派遣を実施。生徒と直に接することができる支援活動となり、来年度以降も継続していきたい。						

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	
事業項目	(2) 夕張市小中学校サポート会議	
実績・効果	<p>児童生徒の健やかな成長を図るため、学校・家庭・地域がお互いに知恵を出し合い、連携協力のもと、より良い学校づくりを推進することを目的に、平成23年9月に地域住民の代表で構成する「夕張市小中学校サポート会議」を立ち上げた。</p> <p>○委員数 14名（内小学校評価委員3名・中学校評価委員3名）</p> <p>○平成27年度会議開催数 2回（6月・2月）</p> <p>○開催内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の学校経営他について説明を行い、意見交換を行った。 ・保護者アンケートの結果に基づき意見交換を行った。 ・学校評価を行い、その内容を保護者と地域に公表。 <p>○保護者のみならず地域住民の意向を的確に把握し、小・中学校の情報を地域に還元することにより、新しい学校づくりに一定の効果がみられる。</p>	
課題・方向性	<p>・委員のバランスのとれた年齢層（子育て世代）の委員の確保に努める。</p> <p>・小中学校だけでなく幼・保及び高等学校との連携を強化し、地域と教職員総ぐるみで学校を盛り立て、夕張ならではの特色ある学校づくりを目指す。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	本事業は、開かれた学校として、地域授業参観の参加者が年々増加の傾向にあり、一定程度の効果は見られる。今後も学校から様々な情報発信をするとともに、地域の情報を聞き入れる体制を更に充実させ、夕張ならではの学校づくりを進めることが必要であると考える。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	2 地域全体で学校を支える体制の充実	
事業項目	(3) 夕張市高等学校対策委員会	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度に公立高等学校配置計画地域別検討協議会にて2学級確保を要望し、平成27～29年度高校配置計画では、夕張高等学校の1学年総学級数が1学級から2学級に変更となった、しかし、平成27年度の入学者は39名となり、結果的に1学級となった。 今後の児童・生徒数の減少を鑑み地域キャンパス校について協議検討を行い、本委員会による地域キャンパス校視察を実施 	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の対策委員会では、地元中学校からの進学率が低下し始めていることに加え、夕張高等学校の学級数が各学年1学級となったことから再編対象となる可能性があることから、地域キャンパス校についても協議をしていく。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	平成27年度入学生の学級数が1学級になったこと及び今後の児童生徒数の減少を鑑み、今後は夕張高等学校の魅力化の創出について、方向性を考えていく。

事務事業名	3 学校教育の充実	
目的・概要	地域との連携と協働による新しい学校づくりを進め、地域と学校、児童生徒の実態に応じた教育課程を明らかにし、主体的に学ぶことのできる教育内容の充実を図る取組を通じ、児童生徒の基礎学力の向上を目指す。	
主な事業項目	(1) 生徒指導対策	(6) 外国語指導充実
	(2) ことばの教室運営	(7) 地域 I C T 利活用広域連携事業
	(3) 障がい児教育促進協議会補助	(8) 特別支援教育支援員配置
	(4) 総合的学習実践	(9) 小中学校学力向上事業
	(5) 中学校体育大会開催	(10) 小中学校図書充実
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 別紙細目(1)～(10)に記載のとおり ・方向性 学ぶことの楽しさや達成感をもち、基礎的な学力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体感的な学習や総合的学習の充実を図り、郷土愛教育の充実を図る。 学習、学力の向上を図るため、個々の児童生徒の状況を把握し、特別教育支援員の継続配置やデジタル教材の活用により学習への関心を高めながら、基礎学力の向上につなげていく。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	子どもたち一人ひとりを大切にし、個性を伸ばす取組として、特別な支援を要する子どもたちを大切に育て、児童生徒が自発的かつ積極的に学習する総合学習やICT教育の充実、ALTを活用した幼小中学校における外国語教育の充実、学校図書の増書による機能の向上、さらに副読本を活用し夕張の歴史と現況についての教育の充実を図った。
判定	評価委員会 評価・意見	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、児童生徒理解に有効なQ-Uアンケートを全学年実施し効果を上げると共に、Q-Uアンケートの研修会を実施し教職員のスキルアップが図られている。 ・C R T とリンクさせることで授業改善や生徒指導にも効力を発揮した。 ・ことばの教室については、通級幼児・児童数に大きな変化は見られないが、相談観察業務等が増えていることから指導員への負担が大きくなっている。 ・外国語指導助手による保育園への訪問指導は効果的である。 ・教育の充実を図るためには、校種間連携による出前授業や乗り入れ授業等の工夫も必要である。 ・標準冊数達成のために学校図書の増冊が課題である。 	

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(1) 生徒指導対策	
実績・効果	<p>音楽発表会は、本市の児童生徒の健全育成及び文化活動の一環として、日頃の教育活動の成果を広く市民に示す場であると共に、小・中・高校間さらに保護者をはじめとした地域住民の音楽を通じた交流の場として位置付けている。</p> <p>平成27年度から「ゆうばりのうた」を市民に広める団体が加わり、参加団体全員で合唱することができた。</p> <p>小・中・高校が一堂に会しての音楽の祭典として、半世紀の歴史と伝統があり、地域住民も親しみやすいことから、夕張市音楽協会加盟団体との連携・協力の体制ができ、地域文化の向上と振興を考えるうえで大きな成果が得られたと考える。</p>	
課題・方向性	<p>幅広い世代の人が参加する事業として、より一層の発展が期待される。</p> <p>会場での私語や飲食といった鑑賞マナーは改善された面もあるが、継続する課題である。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	市内児童生徒の健全育成及び情操教育の一翼を担う行事であり、夕張高校吹奏楽部や夕張市音楽協会との連携など、学校間連携の推進や文化振興事業としての側面も持つ事業であり、本市の教育振興の観点からも、継続した事業展開が必要といえる。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(2) ことばの教室運営	
実績・効果	<p>ことばや運動の発達等に心配のある子どもに対しての指導を実施。</p> <p>各機関の専門家を呼んでの指導など子どもの状態に応じたきめ細やかな指導を実施している。また保護者から育児に対する相談も受けるなど地域の子育て拠点としての役割も果たしている。</p> <p>利用者数 (H27年度末) 児童33名、幼児16名</p>	
課題・方向性	<p>平成26年度末に3名のうち2名の指導員が退職したが平成27年度に退職分の2名を雇用することができた。しかしながら、職務上、採用にあたっては教員免許、保育士資格等を求めていることから、今後も人材確保が厳しい状況である。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	市全体の子どもの数が減少する中、利用者数はほぼ変わらず本市の障がい児教育における役割は年々大きくなっている。また、保護者の子育てに対する相談や幼稚園、保育園ほか関係機関との連携の要として事業効果は高い。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(3) 障がい児教育促進協議会補助	
実績・効果	障がいを持つ児童の個々の状態に対応した柔軟な教育内容、指導方法等により児童生徒の個々の能力を伸ばす必要があり、本事業は自立と社会参加を目指し、普段の学習では経験することのできない、集合学習や市外での宿泊学習を行なうことにより、児童生徒の成長に大きな効果を果たしている。	
課題・方向性	発達的な障がいの児童・生徒が増加しているのは全国的傾向であり、より多くの人々に理解や協力を共有してもらう必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本事業は特別な支援を要する児童生徒の自立と社会参加の一助となり、普段の授業では経験のできない宿泊学習や集合学習を通して児童生徒の発達と成長に大きな効果をもたらしている。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(4) 総合的学習実践	
実績・効果	<p>小学校においては、夕張を知る、夕張の自然、夕張の未来について調べ、まとめ、発表を行った。</p> <p>中学校においては、夕張の伝統文化や郷土史、自然などの社会環境、福祉や産業に目を向け、職業観をもって自分の将来について考えられる取り組みを行った。</p> <p>小・中学校がそれぞれ地域学習、職業体験、文化体験、福祉ボランティアなど幅広い分野において総合的な学習を実施し、学習活動の充実・発展を図った。</p> <p>本事業を通じて、本市ならではの特色ある学習を実施することができたと考えられる。</p>	
課題・方向性	各学校・各学年において、課題が段階的に組まれているため、学年間での発展的な学習が実施できている。夕張を知る学習が深められているので、今後は郷土愛教育をどのように実施するかが課題である。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	本市においては、幅の広い学習活動を行う中で、問題解決能力や物事に対して主体的かつ創造的に取り組む能力、各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け、学習や生活に活かすことに大きく役立っている。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(5) 中学校体育大会開催	
実績・効果	<p>学校教育活動として行われる中学校体育大会への、市内中学校生徒及び引率教諭等の派遣に要する旅費等、経費の一部を補助するための事業であり、本市の体育振興に大きな成果が得られていると考える。</p>	
課題・方向性	<p>大会の成績や開催地により、事業費に大きな差が生じるため、各競技のスケジュールや会場等を把握し、支出見込額を抑える必要がある。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>生徒が教育活動の一環として行われる大会等に参加するための費用を補助するための事業であり、本市の体育振興のためにも必要性は高く、教育効果も高い事業である。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(6) 外国語指導充実	
実績・効果	<p>幼稚園及び小学校において、英語や外国の文化・習慣に慣れ親しむことを通じて、異文化への興味・関心を高めることができ、外国語教育を推進することができた。</p> <p>中学校では、英語担当教員と外国語指導助手（ALT）とのチームティーチングを通して、生徒の実践的なコミュニケーション能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成するとともに、中学校における外国語教育の充実に貢献することができた。</p> <p>また、平成27年度から市内保育園においても、月1回各保育園に訪問し、遊びの中で英語に慣れ親しむ機会を作ることができた。</p>	
課題・方向性	<p>外国語指導助手（ALT）に対して本市の地域性を考慮した生活指導や地域との関わり方等について継続して指導していく必要がある。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	<p>小学校における国際理解教育と中学校における外国語教育を円滑に進めることに寄与することができた。今後も児童生徒の教育活動を保障するため、安定した外国語指導助手（ALT）の確保が必要不可欠である。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(7) 地域 ICT 利活用広域連携事業	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> 運用支援業務の委託 ICT支援員によるシステムの設定、授業のための教材の作成等。 	
課題・方向性	授業での iPad の利用方法・環境の整備を再度検討する必要がある。また、システム・機器の専門知識を必要とするため精通した教諭を養成することが必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
C	B	十分な活用ができれば非常に効果は高いが、機器の使用方法や設定等が煩雑なためそれを解消するための業者のサポート、教育委員会のサポートが必要であるがそれぞれ体制の面で、十分とは言えない。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(8) 特別支援教育支援員配置	
実績・効果	<p>普通学級における特別な支援を要する児童生徒（多動・発達障がい等）の割合が年々増加傾向にあり、この傾向は今後も続くものと見込まれるため、その対策が不可欠である。</p> <p>当該児童生徒に対する学習面などの支援体制の確保と、クラス全体の学力の底上げを図ることを目的とし、特別支援教育支援員を配置しきめ細やかな指導を行うことによりきわめて高い教育的効果をあげるとともに、円滑な学級運営と学級全体の基礎学力向上に貢献している。</p> <p>今後、増員も視野に入れて継続していくことで、さらなる成果が上がることを期待される。</p> <p>平成27年度は、小学校に2名、中学校に1名を配置。</p>	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> 共働き世帯の増加や社会情勢の変化により、特別な支援を要する児童生徒の割合が増加傾向にあり、支援員の増員が望まれている。 支援員は教員免許を持つ者が望ましいが、市内での人材確保が難しい状況。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	普通学級に在籍する特別な支援を要する子どもたちを適切に支援するためには、教師だけでは困難であり、特に本市は小・中学校の1校化による児童生徒数の増加、環境の変化等により支援が必要な児童生徒が増加傾向にあり、教育上不可欠となっている。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(9) 小中学校学力向上事業	
実績・効果	<p>本事業は児童生徒の知能・学力の実態把握をするために必要である。学習の定着度を把握し、学習指導の工夫・改善を図るための指標としての効果も大きいと考える。</p> <p>また、平成27年度より中学校において、CRT（新観点別到達度学力検査）を取り入れ、1年生の到達度評価を実施するとともに、Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）を全学年に実施し、よりよい学級集団の形成を図ることに寄与した。CRTとQ-Uはリンクすることができるため、授業改善や指導力向上及び生徒指導に効力を発揮した。</p>	
課題・方向性	<p>学力向上に関しては、学力検査を分析し学校改善を図るとともに、Q-Uアンケートで学級の実態を把握し、CRTとリンクした学力向上へさらに発展させたいと考えている。また、平成28年度にはQ-Uを小学校においても実施する予定である。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>本事業は児童生徒の学力向上において必要なものであり、教職員が児童生徒の実態を把握し指導することにより学習環境や学級運営もより一層良いものとなる。本市の学力及び学級の実態把握や改善策を考える参考資料として本事業は欠かせないものとする。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	3 学校教育の充実	
事業項目	(10) 小中学校図書充実	
実績・効果	<p>新学習指導要領により学校図書館の機能向上が求められており、文科省が学校の規模により標準蔵書数を定めていることから基準に近づくよう図書を購入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 蔵書数(平成27年度末) 小学校～6,709冊（標準蔵書数7,480冊）、中学校～5,089冊（7,920冊） 平成27年度図書購入数内訳 小学校～339冊（充足率89.7%）、中学校～243冊（64.3%） 	
課題・方向性	<p>学校図書については充足率を満たすよう継続的に購入を進める。また、副読本は昨年度12年ぶりに改訂を行ったが、今後も定期的に見直しを図る。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>計画的な図書の購入ができた。今後も継続して標準蔵書数の基準に近づくよう図書を購入する。</p>

事務事業名	4 学校施設設備の充実		
目的・概要	<p>児童生徒が安全で快適な学校生活を送れるよう、児童生徒の安全の確保、施設の耐久性と教育環境の質的向上のため、必要な事業を行う。</p> <p>また、教材教具等については、児童生徒の学習活動に支障がないよう計画的に整備を行う。</p>		
主な事業項目	(1)	小・中学校校舎維持補修	(6)
	(2)	小・中学校教材教具整備	(7)
	(3)	小・中学校維持管理	(8)
	(4)	小学校教育 I C T 機器整備	(9)
	(5)		(10)
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 別紙細目(1)～(4)に記載のとおり ・方向性 学校統合時の大規模改修により必要な設備等の整備を行っているが、未改修部分の老朽化が表面化してきていることから、児童生徒の安全確保を第一に適切な調査の実施と計画的な整備を行い、教育環境の維持向上に努める。 <p>また、教育ICT機器も順次導入し、現状に即し、地域間格差のない教育環境を提供していく。</p>		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	B	教育 I C T 化も進み、現状に即した教育環境が提供され、より授業に関心を持たせるための授業展開がされている。	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校校舎の維持補修に関して限られた予算の中で児童・生徒の安全な生活と学習ができるよう補修・改修を実施していることは評価できる。また、児童・生徒の故意による破損などが皆無であることは教職員の日常の指導と教育委員会の指導の成果であり評価できる。 ・小・中学校の教材教具の整備に関して新学習要領や限られた予算の中で、児童・生徒の学習意欲や基礎学力向上のために整備が行われていることは評価できる。 ・学力向上のために有効とされる I C T を活用した授業づくりを推進するためには、iPad等機器や使用環境の整備が急務である。 		

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4 学校施設設備の充実	
事業項目	(1) 小・中学校校舎維持補修	
実績・効果	<p>小学校及び中学校において、限られた予算の中で、状況に応じて修繕を実施 <実績> 小学校 予算額 400千円 決算額 332千円 中学校費 予算額 873千円(当初予算400千円) 決算額 857千円(補正額含む) 中学校費 消火栓配管改修工事 予算額 1,470千円 決算額 1,448千円</p> <p>※緊急時は補正予算で対応</p>	
課題・方向性	<p>小・中学校とともに統合時に大規模改修を行ったが、未改修部分の老朽化が表面化してきている状況から、適切な調査を実施しながら計画的な整備が必要となる。なお、大規模改修後の設備についても劣化が進むため、併せて必要な予算の確保に努める。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>小中学校共に学校統合時に大規模改修を行っているが、未改修部分及び回収部分についても経年による劣化が表面化してきていることから、今後、補修箇所が増大する可能性があるため、施設の長寿命化を図るため適切な予算措置を行っていく必要がある。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4 学校施設設備の充実	
事業項目	(2) 小・中学校教材教具整備	
実績・効果	<p>小中学校共に、児童生徒の学習意欲を引き出すため、教育方針や経営計画に沿って、予算の範囲内で教材教具の整備を行った。</p>	
課題・方向性	<p>財政状況が厳しい状況ではあるが、児童生徒の学習意欲を引き出すため、教育方針や経営計画に沿って、限られた予算の範囲内で必要な教材教具の整備を行う。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>小中学校共に新学習指導要領に基づき、児童生徒の学習意欲を引き出すため、教育方針に沿った形で教材の整備を行うことで、一定の成果を上げるものと考えているが、限られた予算の中で、効果的な教材教具の整備に向け、更なる学校との連携・協議・検討が必要</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4 学校施設設備の充実	
事業項目	(3) 小・中学校維持管理	
実績・効果	小・中学校児童生徒の良好な学習環境の維持（各種保守委託）及び教職員の業務遂行のため必要な事務的経費（需用費・役務費等）を限られた予算の中で効率的に実施	
課題・方向性	小中学校共に大規模改修に含まれていない施設設備の老朽化が表面化してきており、保守点検時に様々な修繕必要箇所が散見されてきていることから、良好な学習環境保持のため、必要な予算の確保に努める。なお、大規模改修後の設備についても劣化が進むため、併せて必要な予算の確保に努める。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	限られた予算の中で児童生徒の良好な学習環境を提供するため、予算措置してきているが、今後も必要な予算の確保について学校とともに協議・検討していく。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	4 学校施設設備の充実	
事業項目	(4) 小学校教育 I C T 機器整備	
実績・効果	平成27年度については機器の購入は無し。	
課題・方向性	ICT教育機材の導入と学力向上の効果は期待されるものがあるが、指導者の技術向上を鑑みながら、真に必要な機材教材の導入について、今後の整備方針を検討する。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	ICT教材教具の導入は、指導者及び使用者の活用技術向上を鑑みながら導入する必要があると考えられる。

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実		
目的・概要	<p>児童生徒の発達段階に応じた献立の充実と、食に対する指導と実践を通して、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携して食中毒などの給食事故を防止し、子どもたちに喜ばれる安心安全な学校給食の提供に努める。</p> <p>また、児童生徒の健康管理については、学校保健法の規定に基づき必要な健診等を行うとともに、関係機関との緊密な連携により、インフルエンザなどの感染症の予防に努める。</p>		
主な事業項目	(1) 小・中学校給食運営	(6)	
	(2) 中学校給食業務（給食調理員）	(7)	
	(3) 児童生徒の健康管理	(8)	
	(4)	(9)	
	(5)	(10)	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 別紙細目（1）～（3）に記載のとおり ・方向性 地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れていくとともに、適正な調理員数を確保する。また、学校、保健所、医療機関などと緊密に連携し、インフルエンザ等の感染症の予防対策に努めるとともに、北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、児童の虫歯予防に取り組んでいく。 		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	A	<p>本市の学校給食は、小中共同調理場として運営され、衛生管理の徹底により安全・安心な給食の提供に努めており、食物アレルギーの調査を行い、適正な対策を講じている。</p> <p>小中学校が各1校になり、インフルエンザ等の感染症が広がりやすい環境にあるため、児童生徒に対する「手洗い」等指導を行っている。</p>	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の係の指導はもとより、栄養教諭、管理栄養士、調理員等の衛生管理の徹底により安心安全な給食の提供と食中毒や児童・生徒の食物に対するアレルギー事故が無いことは大変評価できる。 ・調理上の各種設備の長期使用により老朽化が生じているので計画的な改善が必要である。 ・給食費の未納についてはその理由が何かは承知してないが未納解決については学校の担当者ばかりではなく教育委員会やその他の関係者の援助が必要であろう。 ・児童生徒の健康管理については法律に基づき健康診断の実施とインフルエンザ等の感染症の拡大防止については、出席停止や学級・学年閉鎖などの速やかな措置により拡大防止できたことは評価してよい。 		

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	
事業項目	(1) 小・中学校給食運営	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> 給食の提供について 異物混入、食中毒等の事故はなく安心・安全な給食を提供できた。 献立について 栄養所要量はもちろん、彩り、伝統食、地場産食材も取り入れ子どもたちに喜ばれる給食提供ができた。 準要保護児童・生徒に対する給食費の扶助について 小学校～34名 中学校～21名 夕張市は完全給食制であり、給食は教育的側面（食育）から、給食の提供は不可欠。 	
課題・方向性	調理場の設置から6年が経過し各種設備に不具合が生じている。給食が提供できないことへの代替措置がないため計画的な修繕等が必要。 給食費の未納について対策が必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	安心・安全な給食を提供するのはもちろんのこと、学校給食を通じて食に関する興味・関心を高める献立作成ができた。 一方で、給食費の未納対策は公平性の観点からも対策が急務である。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実																	
事業項目	(2) 中学校給食業務（給食調理員）																	
実績・効果	<p>ゆうばり小・夕張中共同調理場の調理員雇用に係る賃金及び社会保険料を措置したものの。</p> <table border="0"> <tr> <td>給食供給数</td> <td>400食</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>調理員数（臨時職員）</td> <td>フルタイム</td> <td>6名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>パートタイム</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>給食事務担当</td> <td>パートタイム</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> </table> <p>給食提供予定日において、1日も欠けることなく提供することができ、また異物の混入も発生せず安心・安全な給食を提供することができた。</p>		給食供給数	400食			調理員数（臨時職員）	フルタイム	6名			パートタイム	1名		給食事務担当	パートタイム	1名	
給食供給数	400食																	
調理員数（臨時職員）	フルタイム	6名																
	パートタイム	1名																
給食事務担当	パートタイム	1名																
課題・方向性	安心・安全な給食を提供するため衛生管理を徹底させるための研修に参加をさせる。																	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価																
A	A	本市の共同調理場については、直営で運営しており、臨時職員の調理員を配置している。H26年度に続き、H27年度も研修に参加させることができ資質向上ができた。																

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	5 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実	
事業項目	(3) 児童生徒の健康管理	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康診断について 学校保健安全法に定められた各種健診について遅滞なく実施をすることができた。 ・感染症の拡大防止について 速やかに出席停止の措置を行うなどして感染拡大の防止に努めたが、インフルエンザのため2月の上旬に小中学校で1度ずつ学年閉鎖を実施。 ・フッ化物洗口について 北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、平成27年度は小学校第3学年まで実施し、児童の虫歯予防に取り組んでいく。 	
課題・方向性	<p>学校のみで感染症の拡大を防ぐことは難しいことから、家庭でも手洗い・うがい等感染症の予防に努める必要がある。 フッ化物洗口は平成30年度までに全学年で実施予定。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>養護教諭、学校医等の協力により児童・生徒の健康診断等を遅滞なく確実に実施することができた。 小中学校で学年閉鎖を実施したこともあり、今後も出席停止の措置を速やかに行うなど感染症の拡大防止に努める必要がある。</p>

事務事業名	6 幼稚園教育の充実		
目的・概要	創造性にあふれ、心豊かな子どもの育成のため、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、人々との触れ合い体験による社会性の育成や、学びと遊びを中心とした教育課程の充実を図るなかで、魅力ある幼稚園づくりに努める。		
主な事業項目	(1) 幼稚園運営	(6)	
	(2)	(7)	
	(3)	(8)	
	(4)	(9)	
	(5)	(10)	
課題 ・ 方向性	(1) 市内の幼児数の減少や建物の老朽化、職員の待遇の改善などの課題に対応するため、認定こども園への移行等の検討を進めていく。		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	A	(1) 人口減少及び少子化の影響のほか、運営予算が限られているため、例年通りの運営とならざるを得ない。また、施設の老朽化が進み、修繕が必要な状況であるが、最低限の対応しか行えず、施設面の環境の低下が進んでいる。	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・他校等連携については、市内の保育園、小学校、養護学校等への交流を通じて、異なる年齢の人々との触れ合いを体験することによって、人間形成の大事な時期において、大いに役立つと思われる。また、小学校入学時に対する不安解消にもつながるので、これからも続けて行ってほしいと思う。 ・食育教育の充実については、職域及び食物の大切さを十分に教えていることに対しては評価できる。については、各家庭においても食育についての認識をもっていたくよう指導していただきたい。 ・特色ある教育活動については、様々な特色ある活動を実施しており、その点では大いに評価できる。特に園外でも色々な交流を行っており、社会性の育成にもつながっていることと思う。 ・地域との連携においては、福祉施設等への訪問等世代間交流を通じ、人間関係の基礎を築くうえでも最も大事な事と思うので、今後も続けて行ってほしいと思う。また、各種行事にも地域の方々の参加を呼び掛けて頂きたいと思う。 ・保護者との連携においての実績、効果については、年数回において保育参観、各種行事を通して信頼関係を築いていることは評価できる。 ・課題としては、人口減少、少子化に伴い、園児の確保が困難な状況の中での運営を期待するものである。また、施設の老朽化が進んでいるということで市との連携を取りながら施設面での環境の向上を期待する。 <p>上記の事柄を考え将来的には幼保一元化も視野に考えなければと思うものである。</p>		

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	6 幼稚園教育の充実	
事業項目	(1) 幼稚園運営	
実績・効果	<p>○他校等連携：市内の保育園及びゆうばり小学校児童との交流、夕張高等養護学校への訪問による幼児間交流や異年齢との触れ合いを通じ、小学校就学時の安心育成に効果を上げた。</p> <p>○食育教育の充実：食物の栽培や収穫、毎日の昼食や行事を通じ、食物に対する興味や知識、食事の大事さを学んだ。</p> <p>○特色ある教育活動：英語遊び、チャリティー演奏会への参加、夕張高等学校の協力によるスポーツ教室、ボランティアによるお絵かき教室や書道教室等の開催</p> <p>○地域との連携：ボランティアによる読み聞かせ、市内福祉施設の訪問（清光園・虹ヶ丘）による世代間交流などを通じ、人間形成の基礎を育成した。</p> <p>○保護者との連携：年5回の保育参観・懇談会や各種行事への参加を通して、教育活動の理解と信頼関係を築いた。</p>	
課題・方向性	市内の幼児数の減少や建物の老朽化、職員の待遇の改善などの課題に対応するため、認定こども園への移行等の検討を進めていく。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	<p>人口減少及び少子化の影響のほか、運営予算が限られているため、職員の創意工夫やボランティアによる様々な連携協力事業を行っている。</p> <p>また、施設の老朽化が進み、大規模な修繕が必要な状況であるが、最低限の対応しか行えず、施設面の環境の低下が進んでいる。</p>

事務事業名	7 文化振興	
目的・概要	社会構造の変化に伴い、多様化する市民の学習要求に対応し、市民一人ひとりが心豊かな生活を充実させるため、市民の自発的学習活動を援助するとともに、体系的、継続的な社会教育活動を推進する。	
主な事業項目	(1) 児童生徒鑑賞教室	(6) 文化財保護事業
	(2) 美術品管理事業	(7) 図書コーナー事業
	(3) 公民館事業	(8) 郷土文化施設事業
	(4) ふるさとギャラリー事業	(9)
	(5) 生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業	(10)
課題・方向性	市として予算措置していない事業については、市民団体が主体となり寄付金や助成金を利用して実施しているが、資金が無くなった時にその事業のあり方をどうするかを検討しなくてはならない。 文化振興は市民の充実した生活に不可欠であることから、市民との連携を強化し、従来事業を継続的に実施するとともに、新たな事業についても検討していく必要がある。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	児童生徒鑑賞教室は舞台芸術を身近に感じる機会を提供し、美術品管理授業は美術品の活用を可能にしている。その他の事業は、予算が厳しいあるいは皆無であるが、市民団体等との連携や創意工夫により円滑かつ効率的な運営が行われている。26年度から加わった郷土文化施設事業は、今後多くの関係者の協力を得て大いに発展させられると考える。
判定	評価委員会 評価・意見	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒鑑賞教室は、音楽・舞台・伝統文化などに触れる機会を提供、情操教育の上から継続が望ましい。 ・美術品管理事業は、旧美術館の収蔵作品の整理に専門職の配置、絵画など公共施設に展示され市民への鑑賞機会にも寄与された。 ・公民館事業は、地域生涯学習の拠点の役割を持ち、高齢者向けの「生きがいと健康」をテーマにした高齢者学級の事業の実施は継続が望ましく、今後、市民サークル活動を活発化できる工夫を検討されてはどうか。 ふるさとギャラリー事業は、保育園児や児童・生徒、一般個人、団体などが芸術作品の発表の唯一の「場」として市民への鑑賞の機会にも資することができた。 ・生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業は、学校教育と社会教育の利点を活かした事業として市民と教職員の連携した創作活動は「ものづくり」への関心が高まり、今後、運営面での財源確保が課題である。 ・文化財保護事業は、モニュメント等の登録申請や文化財の現状調査、更には、学校での理科授業として「ふるさと教育」にも効果があるものと思われる。 ・図書コーナー事業は、本購入予算が確保できたのは評価され、乳幼児や子ども達への読み聞かせ事業はボランティアの協力体制の下で進められ、今後の図書機能を維持するためにも司書の増員など予算確保を要望されたい。 ・郷土文化施設事業は、炭鉱遺産の資料が集積され学術的にも高く評価されている「石炭博物館」を存続、継承していくうえで市民参加による整理整頓など維持管理への支援体制が進められたのは市民共有の財産との認識が深まった。 ・総括として、マチの文化振興は重要な位置付けとなっており、まさに、生涯学習は「マチづくり」「人づくり」にも大きな関わりを持っており、市の財政破綻以降、社会教育予算の乏しい中、活発な事業活動を展開されてきたことはゆうばり再生の力となり、市教委での各種の取組を高く評価したい。 	

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(1) 児童生徒鑑賞教室	
実績・効果	<p>①「NHKこども音楽クラブカルテットコンサート」/公演団体「NHK交響楽団」 日時：平成27年9月1日（火）、13時15分～14時20分 場所：ゆうばり小学校体育館 / 対象：児童及び一般市民 楽器や弦の特長紹介や校歌を4重奏で演奏するなど、子どもたちが飽きない工夫がされており、クラシックに親しむきっかけとなった。</p> <p>②「楽しく学ぶ歌舞伎鑑賞教室」/公演団体「NPO法人伝統文化みらい塾」 日時：平成27年7月21日（火）、10時40分～12時10分 場所：夕張中学校体育館 / 対象：生徒及び一般市民 歌舞伎の歴史の話や化粧、衣装の着付けなども実演され、歌舞伎に興味を持つわかりやすい内容であった。</p>	
課題・方向性	より効果的な教室にするため、事前事後の学習機会を設ける。音楽・芸術・伝統文化等計画的な内容となるよう実行委員会（各学校担当教諭）主体で継続的に取り組むことが重要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	学校において本物の舞台芸術に触れる機会は、情操教育また鑑賞態度の学習のためにも非常に意義のある事業であるため、今後も継続が必要。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(2) 美術品管理事業	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年2月に雪の重みにより屋根が崩落した夕張市美術館の収蔵作品を、平成24年度から中学校の空き教室に整理・保管し活用しているもの。 平成25年度からは、美術館での勤務経験がある専門知識を持つ人物1名を臨時職員として雇用し、市役所内のギャラリーに作品を展示するなど活用を充実させている。また、同年度には、美術品をより良好な環境で収蔵できるよう警備システムと空調設備を設置している。 平成26年度に美術館建物の解体、屋根崩落の際に破損した美術品3点の修繕、美術館地下2階に残されていた兵馬俑のレプリカ等の搬出を実施した。 平成26年度以降、市内の公共施設（市役所・南支所・小学校・中学校・文化スポーツセンター）における展示のみならず他の自治体の美術館への貸出を実施している。 	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> 専門知識を持った臨時職員1名を継続して雇用し、より多くの公共施設における展示を目指す。公共施設に準ずる施設における展示も検討する。 作品活用の機会充実のため、美術館等への貸出も今まで以上に実施する。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	美術館が無くなったが、収蔵品を活用するための体制作りがある程度整ってきている。今後は、市内の公共施設での展示と他の自治体の美術館等への貸出だけではなく、本市の文化振興に寄与する幅広い活用が可能となるよう検討していきたい。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(3) 公民館事業	
実績・効果	<p>「高齢者学級（もも倶楽部）」 「雪月花展」 「朝活キッズ！」 「英会話教室」 「みんなともだち」 「中学校食育教室」 「短詩文芸大会」 「書初大会」 「キッズアスリートスクール」 「出前講座」</p> <p>本年度新規事業 ①すくすく★スクール～長期休業中の小学校の一部を未就学親子に開放する事業 夏・冬各4日間実施。 ②SIkids（土曜学習）～小学3・4年生を対象に冬期間の月1回、小学校体育館で英語のアクティビティを実施。</p>	
課題・方向性	<p>伝統と現代課題を踏まえた上で、事業の必要性や参加者の満足度に基づき、常に「新規・継続・見直し」を視野に事業量を考え、今後も新しい視点で運営していく。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>新規事業については、読み聞かせボランティア、ALTを活用しすすめた。参加者自体は多くなく、方法・内容の見直しも必要と考える。毎年新規事業が増え、全体の業務量を考慮したい。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(4) ふるさとギャラリー事業	
実績・効果	<p>「子どもたちの習字の世界」「真谷地に生まれた政治漫画家・森熊 猛展(☆)」 「相馬昭光写真展「あの日、あの瞬間(とき)」」「花暦～押し花展」 「四季彩彩 絵手紙の会コスモス」 「木村あさ子生きた証展」 「地域活動支援センター作品展」 「9月展(絵画展)」 「たのしかったうんどうかい」 「雪ふるころの書道展(☆)」 「緑風展」 「書初大会作品展」 「絵で見る夕張～変わる風景、変わらぬ風景(☆)」 「櫻井 凜 絵と書の作品展」</p> <p>個人から団体まで、年間を通じ安定して利用される空間となり、展示会場としての認知度も高くなっている。</p>	
課題・方向性	<p>展示会の満足度を高められるよう、展示の工夫などの適切なアドバイスを行なえるよう職員の資質向上。 より多くの方に見てもらえるような周知広報の工夫。展示パネル等の塗り替え。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	<p>市民作品展のほか、3回の収蔵作品展(☆印)を実施できた。公民館のロビーでも、保育園児の作品展を2回実施。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(5) 生涯学習プロジェクト・わくわくプロジェクト事業	
実績・効果	<p>市民や教職員を実行委員として様々な生涯学習活動を推進している。</p> <p>【生涯学習推進プロジェクト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市民を対象とした独自4事業のほかに、市公民館との協働により「朝活キッズ!」を実施。また、家庭教育支援の一環として「生涯学習カレンダー“まなび〜ば”」を月に1度発行、幼稚園・保育所、小・中学校を通じ各家庭へ子育てに関する情報提供。 <p>【わくわくプロジェクト事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市民（主に幼児から中学生）を対象に夏期・冬期休業を利用し、創作活動を企画運営。17講座とクリスマス会を実施、のべ264名の参加があった。 	
課題・方向性	<p>学校教育と社会教育の利点を生かした事業運営を目指しており、各スタッフの学びの場でもある。外部講師を活用し講座の幅を広めたいが、そのためにはスタッフと財源の確保が課題。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	B	<p>事業実施にあたり市民団体との連携は不可欠な状況。社会教育関係職員もスタッフの一員であり、団体の活動趣旨と運営の利便を考え市教委で事務局的な補佐をしている部分もあるがあくまで市民団体の活動であり、勤務時間外の活動はボランティアである。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(6) 文化財保護事業	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・市指定有形文化財である「採炭救国坑夫の像」の効果的な冬季対策（養生）を、文化財保護委員とともに実施した。 ・夕張岳関係者協議会を開催し、国指定天然記念物「夕張岳の高山植物群落及び蛇紋岩メランジュ帯」の保護・保全活動、夕張岳ヒュッテの維持・管理等について意見交換を行った。 ・空知総合振興局が主催する夕張岳における高山植物盗掘防止のための監視活動（登山）に、教育委員会他の職員4名で1回参加した。 ・天然記念物現状変更許可申請の処理については、3件であった。 ・本市の文化財候補にも挙げられている滝ノ上の竜仙峡で見られる地層を用いて、ゆうばり小学校6年の理科の授業で講義を行い、さらに教室でも市内で見られる地層とそこで産出する化石等の解説を行った。 	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど予算が計上されていないが、最低限の維持管理のための予算要求は行っていきたい。 ・文化財の現状確認と文化財候補の調査を進めていく。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>予算も人材も不足しているが、文化財保護委員との協働で市指定文化財の劣化状況を調査するなど、一定の成果を上げている。今後、より多くの関係機関と連携した活動の実現を目指す。石炭博物館再生プロジェクト等、他団体との連携も図る。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(7) 図書コーナー事業	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診会場での読み聞かせ・絵本紹介(年10回) ・小学校での朝の読み聞かせ(1~3年生・週1~2回) ブックトーク(4~6年生・11月以降月1~2回) ・道立図書館・読み聞かせボランティアの協力による小学校での“学校ブックフェス” ・小中学校図書整理 ・読書週間行事としての図書まつり・古本市 ・月ごとのおすすめ本の紹介と展示 <p>まだ、多くは寄付等にたよっているが、本購入費の予算が計上され、新刊図書等の購入も進めることができた。</p>	
課題・方向性	ボランティアの協力により幅広い活動が成り立っているが、高齢化や図書館本来の機能をより充実したものにするためにも、専門職員の育成が必要。	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	小学校からの要請を受け、11月から高学年を対象に、司書によるブックトークを実施。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	7 文化振興	
事業項目	(8) 郷土文化施設事業	
実績・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・30年以上に渡って観光施設であった石炭博物館が、平成25年6月に「郷土文化施設」として社会教育施設に位置づけられたため、教育委員会の事業となったもの。 ・石炭博物館は開館以来博物館類似施設であったが、今後博物館としての機能を充実させていくために博物館相当施設指定申請を行い、平成27年2月に文化庁の補助金等を受けることが可能となる「博物館相当施設」となった。 ・文化庁の補助金を利用して、平成27年度に石炭博物館再生のためのソフト事業を実施した。 ・平成27年度に石炭博物館の耐震診断を実施した(概ね問題無し)。 ・27年11月30日に石炭博物館の指定管理が返上となり、直営施設となった。 ・老朽化し危険建物となっていた炭鉱生活館の除却を実施した。 	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・石炭博物館には、本体及び模擬坑道の老朽化、展示のリニューアル等の解決すべき問題が多いが、国の補助金等を活用しその解決を図る。 ・市民が参加できる、皆で作る、作っていく過程が見える博物館を目指す。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	A	<p>まだ始まったばかりの事業であるが、後世に残すべき施設である石炭博物館の再生は本市の再生へもつながって行くものであることから、今後活動をより一層力充実させていくこととしたい。</p> <p>文化庁の補助金等の申請を行い、より多くの資金の獲得を目指す。</p>

事務事業名	8 スポーツの振興		
目的・概要	子どもからお年寄りまで、市民があらゆる機会を通じて気軽に楽しくスポーツやレクリエーション活動に参加できるよう、生涯スポーツに適した環境の整備を推進するとともに、施設利用者の利便性を考慮するなど、合理的な施設運営に努める。		
主な事業項目	(1) 文化スポーツセンター管理	(6)	
	(2) 平和運動公園管理	(7)	
	(3) 体育施設管理（指定管理等施設）	(8)	
	(4) 清水沢プール管理	(9)	
	(5)	(10)	
課題 ・ 方向性	<p>老朽化が進んでいる施設は、今後のあり方を早急に検討する必要がある。今後も施設利用上の支障や事故が起きないように適切な管理運営を行う。また、全ての来館者に気持ち良く利用してもらえるよう、利用者の利便性を第一に考えた運営に努めることにより、利用者の増加を目指す。</p> <p>老朽化している設備のうち緊急性の高いものについては、修繕の予算の確保に努め、長期間使用できるようにする。</p> <p>ネーミングライツの応募がまだ無い文化スポーツセンターについては、引き続き募集を行う。</p>		
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価	
B	B	<p>一部の施設については予算が厳しい中で老朽化が進んでおり、利用者に不便をかけている面もあるが、最低限の予算と限られた職員体制の中で創意工夫しながら運営を行うことで、スポーツ振興、健康増進の推進のみならず、合宿や大規模な大会等の開催で地域の活性化にも大きく寄与していると言える。</p>	
判定	評価委員会 評価・意見		
B	<p>・ゆうばり文化スポーツセンターは、夕張市のスポーツセンターの中核を有した施設として啓発活動や大会の誘致など積極的に取り組み、利用者への利便性を考え維持、管理に努められてきたことは評価されるが、依然、人員配置や修繕費用など予算確保が厳しい状況にあり、今後、市民の健康増進とスポーツ振興の観点からも予算の拡充に向けた努力が必要と思われる。</p> <p>・平和運動公園は、天然芝の美しい競技場として利用者から高い評価を得ており、ネーミングライツとして㈱サングリン太陽園からの支援により維持管理へ協賛されてきたが、平成28年度で契約満了となることから今後の財源確保に向け新たな企業などへ呼びかけ予算面での要請活動をされたい。</p> <p>・体育施設管理（指定管理等施設）は、市内の体育施設は老朽化が激しく修繕等が必要なものについては早急に対応、災害防止を含めた予算要求をされてはどうか。</p> <p>・清水沢プール管理及び利用状況としては、かつての温水プールの廃止以降、多くの市民に水に親しむ機会として提供されてきたが、児童数の減少に伴い、利用状況は減少傾向にあったが、消防署の協力を得て児童、教職員等の水難防止訓練の「場」として活用されたことは有益な取り組みが実施され評価したい。</p> <p>・総括として、生涯スポーツの啓発に対する取組として、情報発信をしており、更に、老朽化している施設の補修など緊急性の高いものについては、環境整備に向けての予算要求を行い、今後、地域住民が「気軽に利用できるような施設」であることを第一に考え取り組んで欲しい。</p>		

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	8 スポーツの振興	
事業項目	(1) 文化スポーツセンター管理	
実績・効果	①情報提供・・・行事予定などの周知のため「暮らしのカレンダー」に行事を掲載するとともにサークル紹介のポスター掲示等により情報提供、さらに市ホームページで予約状況の掲載を行っている。その結果、利用の問い合わせから申請までの手続きがスムーズになっている。また、当日開催の大会名や合宿名などを玄関に掲示し、来館者への案内を行った。 ②設備維持管理・・・施設・設備等の老朽化に対応できる限り修繕・整備を行ってきた。主なものとしてはアリーナで催物使用等の際に床に敷くフロアシートを巻き取るための機械2台の修繕(100千円)を実施した。 ③利用状況・・・テニスコート40件717人 スポーツセンター802件22,974人 ④ネーミングライツ・・・応募は0件であった。	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕や更新の経費が必要となるため、予算要求を行っていく。 ・今後も情報提供と施設整備に努める。 ・慢性的な人員不足を解消する必要がある。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	市内の人口減少の影響により、利用数は減少傾向にあり、また大会や合宿の規模も小さくなってきているが、利用者が安全かつ快適にスポーツを楽しめるよう、今後も必要な修繕・更新等を実施し、環境整備と施設管理に努めている。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	8 スポーツの振興	
事業項目	(2) 平和運動公園管理	
実績・効果	①情報提供・・・文化スポーツセンターと同様、「暮らしのカレンダー」に開催される行事を掲載し、情報提供及び問い合わせへの対応を行ってきた。 ②施設維持管理・・・グラウンド利用の合間をぬって天然芝の補修・育成等のメンテナンスを行い、計画的なグラウンド芝を整備・補修をしている。 ③利用状況・・・球技場65件9,851人 陸上競技場8件890人 野球場21件2,607人 合計94件13,348人 ④ネーミングライツ 年160万円(平成26年度は月割りで120万円)、平成28年度までの3年契約で(株)サン格林太陽園に決定した。	
課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド芝の痛を芝の一部張り替え、芝生育成等ができる様、利用者にも協力を得てスケジュール調整を今後も行う。 ・施設・設備等の修繕・整備の経費が必要となるため、予算要求を行っていく。 ・慢性的な人員不足を解消する必要がある。 	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	社会情勢などにより、施設利用における大会や合宿が小規模になってきているが、管理された天然芝は利用者から高い評価を得ている。文化スポーツセンターと同様、今後も必要な環境整備と施設管理に努めることとしたい。

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	8 スポーツの振興	
事業項目	(3) 体育施設管理(指定管理等施設)	
実績・効果	<p>・市直営が難しいことから、指定管理等での運営を行っている。 ○利用実績(人数、カッコ内はH26年度)</p> <p>1. 指定管理 ①市民健康会館 3,180人(3,920人) ②市営球場 1,452人(968人) ③紅葉山パークゴルフ場 813人(714人) ※①は市民を中心に高い頻度で利用されている。②は市内外から利用され、人数を大きく伸ばしている。③は市民中心で、平成26年度から新しい指定管理者による運営。</p> <p>2. 協定書による無償管理委託 ①夕張岳ヒュッテ 478人(394人) ※登山及び自然保護活動の拠点としての効果は非常に高い。</p>	
課題・方向性	<p>・指定管理で運営する体育施設は老朽化が進んでいることから、管理者と協力して可能な限り修繕等を行い、それと同時に代替施設等の検討を行う。 ・夕張岳ヒュッテについては現状どおりとする。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
B	B	<p>予算が全く無い中で、各管理者は創意工夫をして管理・運営にあたっている。このことが本市のスポーツ等の振興に寄与していることから、今後も各管理者と協力して管理にあたることとしたい。 修繕等が必要なものについては、予算要求を行っていくこととしたい。</p>

平成 28 年度 夕張市教育行政点検評価表 (細目)

事務事業名	8 スポーツの振興	
事業項目	(4) 清水沢プール管理	
実績・効果	<p>・6月末～8月の計57日間の稼働で、計2,341人が利用した(大人242人、高校生3人、中学生47人、小学生1,779人、幼児270人)。 ・昨年度の利用者数の合計が2,420人であったため、79人(3.3%)の減員となった。原因としては、児童・生徒数が減少したこと、昨年まで頻繁に通って来ていた児童が中学生になり来なくなったことなどが考えられる。収入は昨年度の44,010円から36,880円へ16.2%の減となった。 ・低水温等で休館となることは無かった。 ・幼児用プールの配管の修繕を実施した。 ・7月22日に、消防署の協力を得て、小学校5・6年児童を対象に着衣泳の技術等の水難防止教室を行った。</p>	
課題・方向性	<p>・管理人・監視員に欠員が出た場合、新たな人員を探すのが難しい。 ・市内唯一のプールであるため、今後も必要な修繕・更新等を実施し、市民が水に親しむ機会を提供できるようにする。</p>	
事業達成度	事業効果	教育委員会 自己評価
A	A	<p>小学生を中心に多くの市民に水泳を楽しむ機会を提供し、小学校・保育園のプール授業にも貢献することができた。また、児童、教職員等の水難防止訓練の場としても貢献することができた。 今後も必要な修繕・更新等を実施し、施設の維持・管理を行っていくこととしたい。</p>

資 料

- ・平成 28 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱・・・・・・・・・・・・ 34
- ・夕張市教育行政評価委員会設置要綱・・・・・・・・・・・・・・ 35
- ・夕張市教育行政評価委員会実施要領・・・・・・・・・・・・・・ 36
- ・夕張市教育行政評価委員会開催経過・・・・・・・・・・・・・・ 37

平成 28 年度夕張市教育行政点検評価実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(昭和 31 年法律第 162 号)の規定に基づき、夕張市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況を自ら点検評価することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすために必要な事項を定めることを目的とする。

(点検評価の対象)

第 2 条 平成 28 年度における点検評価の対象は、教育委員会所管の事務事業のうち、平成 27 年度に実施した主要な事業とし、その取り組み状況と成果について教育委員会が点検評価する。

- (1) 安全安心な通学体制の整備
- (2) 地域全体で学校を支える体制の充実
- (3) 学校教育の充実
- (4) 学校施設設備の整備
- (5) 児童生徒の健康管理及び学校給食の充実
- (6) 幼稚園教育の充実
- (7) 文化振興
- (8) スポーツの振興

(事業の達成度及び評価の判断基準)

第 3 条 事業の達成度及び効果の判断基準は次のとおりとする。

- (1) 達成度の判断基準
 - A 事業が十分達成された (達成度 9 割以上)
 - B 事業が相当程度達成された (達成度 7 割～8 割)
 - C 事業の達成度がやや不十分である (達成度 5 割～6 割)
 - D 事業が達成されなかった (達成度 5 割以下)
- (2) 効果の判断基準
 - A 十分な事業効果が得られた (9 割以上)
 - B 相当程度の事業効果が得られた (7 割～8 割)
 - C 事業効果がやや不十分である (5 割～6 割)
 - D 事業効果が不十分である (5 割以下)

(点検評価表)

第 4 条 点検評価表の様式は別紙のとおりとし、教育委員会の評価は事業毎に担当者が自己評価し教育長が最終決定する。

附 則

この要綱は決定の日から施行する。

夕張市教育行政評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 夕張市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価に関し、客観性の確保と効果的な教育行政の推進を図るため、夕張市教育行政評価委員会（以下「評価委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 評価委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 教育委員会が行う事務事業の評価に関すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 評価委員会は、委員5人以内で組織する。

2 委員は、教育について優れた見識を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選出する。

2 委員長は、会務を統括し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 評価委員会の会議は、必要に応じて教育委員会が召集する。

2 評価委員会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 評価委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。

(庶務)

第8条 評価委員会の庶務は教育課学校教育係において行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、評価委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が評価委員会に諮って定めるものとする。

附 則

この要綱は決定の日から施行する。

夕張市教育行政評価委員会実施要領

1 実施方法

前年度の教育行政執行方針等に掲げる取組み内容の達成状況及び進捗状況に対する教育委員会の自己評価について、次項の視点に基づき教育面での有効性の観点から評価判定と意見具申を行う。

2 評価の視点

- (1) 事業の妥当性
- (2) 客観的根拠に基づき自己評価しているか
- (3) 社会情勢に対応しているか

3 評価の区分

- A 順調 (事業達成度 9 割以上)
- B ほぼ順調 (事業達成度 7 割～8 割)
- C 努力を要する (事業達成度 7 割以下)

4 点検評価表等の公表

夕張市教育行政点検評価表（自己評価調書）及び関係資料については、夕張市ホームページへの掲載等により随時公表する。

5 会議録記載事項

会議録に記載する事項は次のとおりとする。

- (1) 会議の日時及び場所
- (2) 出席者の氏名
- (3) 議題
- (4) 個々の発言内容の要旨
- (5) 発言者の氏名
- (6) その他委員長が必要と認める事項

夕張市教育行政評価委員会委員名簿

氏名	役職等	備考
藤原 哲	元夕張市監査委員	委員長
小網 敏男	夕張商工会議所専務理事	副委員長
菅原 孔道	大乘寺住職	
横川 孝一	夕張市社会福祉協議会会長	
石丸 力	夕張市校長会会長	

平成 28 年度第 1 回夕張市教育行政評価委員会議事録

10 月 26 日（水）16:00

夕張市役所教育委員室

出席者 藤原委員長・小網委員・菅原委員・横川委員・石丸委員
小林教育長・押野見課長・堀主幹・高橋係長
進 行 押野見課長

1. 開 会

押野見課長が開会を宣言

2. 教育長あいさつ

小林教育長より挨拶

3. 委員及び事務局職員紹介（以降進行 藤原委員長）

（各自）

4. 協 議

（押野見課長説明）

（1）平成 28 年度夕張市教育行政点検評価表について

平成 27 年度教育行政執行方針を踏まえ、27 年度に行った市教育委員会の事業の内、8 項目（安全・安心な通学体制の整備、地域全体で学校を支える体制の充実、学校教育の充実、学校施設設備の整備、児童生徒の健康管理及び学校給食の充実、幼稚園教育の充実、文化振興、スポーツの振興）について、項目ごとに目的及び概要、主な事業項目、課題及び方向性、事業達成度及び事業効果の自己評価について（資料 4 ページ～32 ページにより）説明した。

（2）評価の進め方について

8 項目を各委員で分担し、案を提出いただいた後全体で討議し評価委員会の評価判定と意見具申を行い、点検評価表（総括表）を完成させる。

- ・小網委員：（7）文化振興、（8）スポーツ振興
- ・菅原委員：（6）幼稚園教育の充実
- ・横川委員：（2）地域全体で学校を支える体制の充実
- ・石丸委員：（1）安全安心な通学体制の整備、（3）小・中学校教育の充実
- ・藤原委員：（4）学校施設設備の整備、（5）児童生徒の健康管理及び学校給食の充実

(3) 今後のスケジュールについて

議会に報告書を提出し、同時に夕張市ホームページで市民の皆様に公表したいと考えている。
次回委員会で評価委員会の評価判定とまとめの最終確認を行い確定する。

・第2回委員会 10月30日(金)午後3時30分

(4) その他

各委員が担当した評価と意見の素案については、11月18日(金)まで事務局にお届け願いたい。

8. 閉 会

11 月 24 日（木）14:30

夕張市役所教育委員室

出席者 藤原委員長・小網委員・菅原委員・横川委員・石丸委員

小林教育長・押野見課長・堀主幹・高橋係長

進 行 押野見課長

1. 開 会

（押野見課長が開会を宣言）

（以降進行 藤原委員長）

2. 協議事項（1）評価委員会評価及び意見について

10月25日に開催した第1回評価委員会において、8つの大きな評価項目について、各委員で分担し作業を行ってきたところでありますが、本日はそれを持ち寄って協議を行い、委員会全体の評価と意見としたいと思います。

事務局が資料をまとめているので、事務局から順次読み上げてもらい、項目別に協議し最終評価と意見としたいと思います。

（事務局より説明と委員からの意見）

- 1 安全安心な通学体制の整備について
- 2 地域全体で学校を支える体制の充実について
- 3 小中学校教育の充実について
- 4 学校施設設備の充実について
- 5 児童生徒の健康管理及び学校給食について
- 6 幼稚園教育の充実について
- 7 文化振興について
- 8 スポーツ振興について

各項目の評価と意見については、ただ今の協議をもって、事務局で整理し最終的な評価及び意見といたします。

3. 協議事項（2） 評価委員会総評について

評価委員会のまとめの文章については、前回各委員から出されたご意見を踏まえ、原案を作成。（3ページ 5を読み上げ）

（質問・意見なし）

評価委員会の全体のまとめについては、この原案をもって決定。

4. 協議事項（3） その他

この点検評価報告書については、議会への提出を行い、12月に市のホームページに掲載する予定。

なお、広報ゆうばり12月号に、点検評価報告書の公開について掲載し、市のホームページでの公開及び市教育委員会及び南支所に報告書を1部ずつ置き市民へ公表することについて周知する予定としている。

5. 協議事項（4） 評価委員会から教育長へ評価結果の報告

平成28年度教育行政評価委員会における平成27年度実施事業に対する評価を行いましたので、本書のとおり報告いたします。

なお、本日の委員会における文言修正等を踏まえた上での提出となりますのでよろしくお願い致します。

（教育長よりお礼のことば）

6. 閉会

以上をもちまして、第2回教育行政評価委員会を終了します。

委員の皆様におかれましては長期間に渡り、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

事務局 : 評価委員皆様、誠にありがとうございました。

平成27年第2回定例夕張市議会

平成27年度 教育行政執行方針

平成27年6月4日

平成27年度 教育行政執行方針

1	はじめに	1
2	地域との連携による	
	学校づくりの推進	1
3	心豊かな人と文化を育む	
	生涯学習社会の推進	8
4	おすび	12

1 はじめに

平成27年度の教育行政執行方針をご審議いただくにあたり、その大綱を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

教育基本法は、「教育は人格の完成をめざし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成にある」と、その目的と基本理念を明確にしているところであります。

この理念を踏まえ、市民の信頼と期待に応えるために必要な教育環境を整備し、教育の質を高めていくことは極めて重要であり、地域人口の減少、社会構造の変化など厳しい状況下にあっても、未来を担う子どもが人間性豊かで創造性にあふれ、心身ともに逞しく成長していくよう取り組むとともに、市民一人ひとりが生涯にわたり文化やスポーツに親しみ、学習し、生きがいを持って生活できる生涯学習社会を展望しつつ、教育行政を推進してまいります。

2 地域との連携による学校づくりの推進

「自然豊かな緑の大地と炭鉱（やま）の歴史、そこに住む市民の苦闘の歴史により築かれた郷土「夕張」に誇りをもち、自主・

自立の精神に満ち溢れ、心豊かに共に支えあい、夢や希望に向かって逞しく生きる人を育む」ことを基本理念としながら、小・中学校一校体制のもと、地域の方々との連携と協働を通し、夕張ならではの学校づくりに取り組んでまいります。

第一には、学校が地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させるなど、地域の協力を得て学校を運営するため、「夕張市小・中学校サポート会議」の機能を十分に活用し、地域に開かれた学校を基盤として、地域の特性や課題をもとに、生きる力と心のふれあいを育むことのできる教育をめざします。また、教育活動の成果を診断・評価する「学校評価」の結果を公表し、ご意見をいただく中で特色ある学校づくりに取り組んでまいります。

第二には、地域の教育力を活性化するため、「学校支援地域本部事業」の充実をはかり、夕張市全体で学校教育を支援する地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

第三には、幼・小・中・高校間の連携を深めるため、「夕張市学校連携協議会」の機能を活用し、各学校間の情報の共有化をはかるとともに、夕張の子どもを共に育てるという視点に立ち、地域の人々の期待と信頼に応える教育活動の充実に努めてまいります。

小・中学校においては、学ぶことに楽しさや成就感をもち、基礎的な力を確実に定着させる学習指導を行うとともに、体験的な学習、地域の自然・社会の素材を活用した学習や総合的学習の時間の充実をはかります。学習や生活面での特別な支援を必要とす

る児童生徒一人ひとりに対し、きめ細やかな指導と支援を行うため、小学校における特別支援教育支援員を増員してまいります。また、外国語指導助手（ALT）を活用した中学校での外国語教育の充実と、小学校における国際理解教育・外国語活動の推進に努めるとともに、幼稚園においては特色ある教育として英語遊びを実施してまいります。

小学校にあっては、基礎学力の向上をはかるため、十分な調査・分析をもとに、個々の児童の状況を把握し、学習した内容が確実に身に付くよう取り組みを進めるとともに、わかりやすい授業のため電子黒板を利用した授業や、学校支援ボランティアなどとも連携し、児童の学力・体力の向上に努めてまいると共に、新しく改訂した小学校副読本「ゆうばり」の活用を通して、特色ある地域学習を推し進めてまいります。

中学校においては、学級集団に関する情報を収集・分析し、楽しい学校生活を送るために解決すべき課題を把握するため、Q-Uアンケートを実施いたします。このアンケート結果を分析し活用することにより、より良い環境の中で生徒の授業や、自学自習への関心を高めることを通じ、学力の向上につなげてまいります。

また、近隣の市町と連携し、デジタル教材やeラーニングシステムの活用を通して、授業への関心を高め、指導の充実をはかります。

読書活動につきましては、子どもの情操を育み、より豊かに生

きるための力となることから、学校、幼稚園、保育園、保護者など関係者が同じ目標に向かい、計画的に読書環境を整えるよう「夕張市子ども読書活動推進計画」にもとづき推進いたします。また、学校図書室の蔵書については、標準蔵書数を踏まえ、計画的に整備を進めながら学校や家庭で読書に親しむ機会を増やすとともに、図書コーナーとの連携や巡回文庫、読み聞かせ活動の充実など、読むことに対する興味・関心を高めてまいります。

生徒指導につきましては、児童・生徒が明るく、元気に学校生活を送れるよう教職員が一体となり、子どもの悩みや苦しみの早期発見、早期対応のために、定期的なアンケートの実施や相談日の設定、日々コミュニケーションを深める体制を充実させるとともに、学校・家庭・地域・関係機関と連携し、情報の共有と専門性の活用をはかり、非行やいじめ、不登校の未然防止など、生徒指導の課題解決に努めてまいります。また、「夕張市いじめ防止基本方針」に基づき、市全体で子どもの健全育成をはかるとともに、児童生徒が、互いの違いを認め合い、支え合い、健やかに成長できる教育環境をつくってまいります。

教材・教具、備品等の整備や校舎等の維持補修など教育環境整備につきましては、校舎の長寿命化に向けた計画的メンテナンスを実施するほか、児童生徒の学習活動に支障がないよう机や椅子等々の更新を順次行ってまいります。

児童生徒の健康と安全指導につきましては、生命の尊さ、体力の向上、運動能力の助長や健康で安全な生活を営む能力を育成するため、体育授業や部活動等の充実をはかるとともに、関係団体とも連携し、学校における防災教育や交通安全指導の充実に努めてまいります。また、不審者情報や熊出没情報などを保護者に通知する、ICTを活用した「一斉同報サービス」により、児童生徒の安全・安心の醸成に努めてまいります。

児童生徒の通学につきましては、学校、家庭、市民ボランティア及びバス会社など関係機関と連携し、安全・安心な通学体制を地域ぐるみで確保してまいります。また、乗車マナーや安全な乗降を指導するバス添乗員を配置するとともに、ICTを活用した「登下校情報サービス」の一層の普及に努めてまいります。通学路の安全確保や交通安全施設の整備につきましては、引き続き関係機関に要望してまいります。通学に関わる新たな課題につきましては、関係者で構成する「夕張市通学方法等検討委員会」を活用し、情報の共有をはかるとともに、児童生徒と保護者の目線に立った対応を行ってまいります。

特別な支援を必要とする児童生徒には、「夕張市障害児教育促進協議会」の集合学習や宿泊学習を通して、小中学校の9年間で社会性の育みと、異年齢の活動体験を行ってまいります。また、「夕張市特別支援教育連携協議会」では、インクルーシブ教育の視点で、市内関係機関との連携のもと、特別支援教育の理解や協

力を深め、早期の教育相談や特別支援教育の充実に努めてまいります。さらに、特別支援教育担当者の研修促進や、特別支援教育支援員の加配等、指導の充実に努めてまいります。

学校保健につきましては、学校・保健所・医療機関などと緊密に連携し、インフルエンザなど感染症の予防対策に努めるとともに、北海道歯・口腔の健康づくり 8020 推進条例及び夕張市フッ化物洗口推進事業実施要綱に基づき、引き続き幼稚園並びに小学校において児童の虫歯を予防する取り組みを進めてまいります。

学校給食につきましては、地元食材や季節に応じた新鮮で安全な食材を積極的に取り入れ、児童生徒の発達段階に即した献立の充実など、自校方式の利点を最大限生かす中で、子どもに喜ばれる給食を提供してまいります。また、食の指導計画と実践を通して、食に対する興味と関心を高めるなど、食育の充実に努めるとともに、保健所など関係機関と緊密に連携し、食中毒など給食事故を防止し、安全で安心な学校給食を提供してまいります。また、食物アレルギーへの対応については、市内関係機関との連携体制を構築し、アレルギーのある児童生徒の情報を共有しながら学校を支援いたします。学校内には食物アレルギー対応委員会を設置し、日常的な指導、緊急時の対応、個々の児童生徒等の状況に応じた対応に努めてまいります。

これら学校教育の充実のため、教職員が自らの使命と専門性を

高めるとともに、児童・生徒の学力向上に向け、日常の教育実践や工夫を積極的に行ってまいります。また、学校内外における授業研究と共同研究の推進、更には幼・小・中・高の連携研修等の推進を通して、その公開等、研究・研修の充実をはかり、教職員の資質向上に努めてまいります。

教職員人事につきましては、学級編制基準や定数増の改善、定数加配等を北海道教育委員会に要請するなどして、教職員配置の適正化をはかってまいります。

教職員の健康管理では、生活習慣病や心の病の未然防止に努めるとともに、早期発見のための検査等を通して、疾病の早期治療を働きかけてまいります。

ユーパロ幼稚園につきましては、創造性にあふれ、心豊かな子どもを育成するため、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、様々な人々との触れ合い体験による社会性の育成に努めてまいります。また、「英語で遊ぶ」「自然に学ぶ」など「遊び」と「学び」を中心とした教育課程の充実をはかるとともに、地域のボランティア団体と連携し、本の読み聞かせなどによる読書意欲の向上や、幼児を対象とした企画を通し、就学時の安心感を醸成するなど、魅力ある幼稚園づくりを進めてまいります。また、今後も幼児数の減少が避けられないことから、更なる幼稚園機能の充実をはかりながら、「認定こども園」への移行について、関係

各所と共に検討を進めてまいります。

夕張高等学校につきましては、本市の中学生が年々減少していることから、後期中等教育の将来的なあり方と、より良い形での高校の存続に向け、夕張市高等学校対策委員会での協議を重ねながら、その方向性を議論するとともに、北海道教育委員会へ条件整備等の要望活動など、必要な対応を行ってまいります。また、夕張高等学校の新たな魅力づくりのため、連携を深めてまいります。

子育て支援に関わる学校活用として、長期休業中の平日の一定期間、時間限定ではありますが、小学校の図書室や体育館を開放し、子育て世代の方々が集える場づくりを行ってまいります。

3 心豊かな人と文化を育む生涯学習社会の推進

生涯学習の推進につきましては、4年目を迎える第5次社会教育中期計画の基本理念と方針に基づき、生涯学習の観点に立った社会教育行政を進めてまいります。

市民が心身ともに豊かで、健やかに、潤いのある生活を営むために社会教育が果たす役割は大きなものがあります。文化団体・体育団体・各種市民団体やサークルなどとの連携をはかり、その活動を支援し、文化・芸術の振興に努めてまいります。

社会教育の対象は幼児から高齢者まで極めて幅広く、そのニーズも多種多様なものがあります。しかしながら、財政再生における厳しい状況下にあっても、そのニーズに応えることもまた、教育行政に求められているところでもあります。そのため、生涯学習関係の市民グループや大学等からの継続的な支援・協力による学習機会の提供などにより取り組みを推進してまいります。

青少年教育につきましては、全市横断的な子どもとの交流を促すなかで、社会的ルールや自主性を身につけ、思いやりの心を育んでいくことが重要であり、家庭や関係団体と連携し、地域ぐるみで子どもの健全育成に努めてまいります。

また、子ども達の健やかな成長のため、土曜日の教育環境を豊かなものにする必要があることから、公民館とゆうばり生涯学習推進プロジェクトの共催で、土曜学習「S！Kids」を開催してまいります。

更に、子ども達が生の舞台芸術など優れた芸術作品に接する機会を設け、豊かな情操を育むため芸術鑑賞事業の充実をはかるとともに、全市の児童生徒と市民文化グループとが協働で開催する音楽発表会の充実にも努めてまいります。

高齢者教育につきましては、引き続き公民館事業として「もも倶楽部（高齢者学級）」を開設し、生きがいや健康をテーマに、保健行政など関係機関とも連携して、講座の充実にも努めてまいります。

文化財の保護・活用についてであります。貴重な動植物が生息する夕張岳の自然環境を守る活動については夕張岳ヒュッテの管理者などと、夕張の歴史を語る建造物や資料を守る活動などは関係行政機関や市民団体と連携し、情報の発信、啓発活動などに取り組んでまいります。また、小中学校において郷土学習を通し、炭鉱の歴史などについて学ぶ機会を推進するとともに、夕張中学校に設置しております「ゆうばり歴史・教育資料室」を、引き続き広く市民の皆様などに公開してまいります。

「図書コーナー」につきましては、蔵書の充実に努めるとともに、図書貸出業務のほか、図書まつりの開催、読み聞かせ活動、巡回文庫、道立図書館の協力事業「学校ブックフェスティバル」の開催など、市民ボランティア組織の協力をいただきながら、市民・子どものための読書活動を推進いたします。また、道立図書館との連携強化や、運営の効率化をはかる中で、利用者の利便性の向上に努めてまいります。清水沢地区公民館での図書の貸出しについては、配置図書数の増に努め、利便性の向上をはかってまいります。

市所蔵の美術品につきましては、適切な管理に努めるとともに、市民生活に「癒しと安らぎ、潤い」を提供できるよう、市内の公共施設などを活用し、積極的な展示公開に努めてまいります。

また、文化団体の創作活動を活性化するため、発表や展示環境

の充実に努めてまいります。

夕張市石炭博物館につきましては、社会教育施設である博物館本来の機能を充実させ、市民への普及、啓蒙活動を行うとともに、今後市民のコミュニティー形成の場となるよう、様々な検討を行ってまいります。また、我が国の産業の礎を築いた石炭に関わる展示資料を有するほか、実物の坑道を見学用に保存した模擬坑道など、国内で他に類を見ない貴重な施設であることから、夕張が世界に誇る郷土文化施設として、更には夕張の貴重な歴史を後世へと伝えるための拠点とし、石炭や炭鉱について多くを学べる場となるよう努めてまいります。また、資料の収集等を行い、市民の教育、学術、文化の発展に寄与できるようにするとともに、周辺の炭鉱遺産群を併せて活用した普及活動にも努めてまいるほか、模擬坑道を含めた施設全体の安全についても強化をはかってまいります。

文化スポーツセンター、テニスコート、平和運動公園、清水沢プールについては、市民の利用にとどまらず、市外のスポーツ愛好者も利用する貴重な体育施設でもあることから、利用者への利便性を考慮し、必要な整備を行うとともに、創意工夫を重ね管理運営を行ってまいります。また、道内外の自治体と連携し施設利用の拡大をはかるとともに、子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる施設運営を進めてまいります。

昨年度末、市民の発表会の場となっていた旧市民会館が閉館し

たことから、夕張の文化継承のため、福祉・医療・文化・商業・行政等の生活サービス機能の集約を進める中で、施設の複合化による賑わいづくりと併せて検討を進めてまいります。

指定管理により運営されている市民健康会館、市営球場、紅葉山パークゴルフ場につきましては、地域の貴重な体育施設であることから、引き続き指定管理者と連携し、運営の円滑化と利用促進をはかってまいります。また、これら施設において開催されるスポーツ大会・イベント等の実施にあたっては、主催者や各種競技団体との連携をはかりながら、必要な支援協力を行うなど、体育・スポーツの振興と施設の有効活用を推進してまいります。

4 おすびに

教育委員会といたしましては、故郷夕張の自然・歴史や風土の上に立って、力強く、心豊かに生きる子ども達を育てること、そして夕張市民が文化・芸術・スポーツに触れ、様々な活動を通して学習し、日々の生活を健康で明るく、潤いを持って楽しめるよう努めてまいります。

以上、平成 27 年度の教育行政執行方針について、その概要を申し上げましたが、市民の付託に応える教育の推進に誠心誠意努めてまいりますので、市議会並びに市民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。